

養正亦良好、予以上、如、非衛生的感作
將又任地到着後、氣候風土ノ激變等、患係
衛公次第ニ身體ノ抵抗力ヲ減弱シ、遂ニ本病
ヲ誘發セリ、之ニシテ、之真ニ公務ニ起因
シト認ム

右證 明 又

昭和十九年十月十日

第六十二師團長 陸軍中佐

第六十三師團獨立步兵第二大隊附 陸軍軍醫中尉

磯崎 田口

磯崎 田口

彰 磯崎

病 歷 書

本籍地

現住所

第六十二師團獨立步兵第二大隊步兵中隊

昭和十八年徵集

陸軍 上等兵

伊藤

勇

一病 名 慢性腸炎兼脚氣

二發病年月日 昭和十九年六月十日

三發病場所 中華民國山東省分城

四原因 別紙事實證明書記載、如シ

五經過

本症昭和十八年六月十日頃、小様下痢、便日數行ヲ訴ヘ、身體衰弱、徵アリ、ガ南西諸
島ノ轉進際、六航海中、船艙内、狹雜灼熱等、惡條件アリ、テ體力更減弱シ、八月
平日那霸上陸後、受診シ、以來、味治ラカ、却、本病ニ於テ、保育訓練ヲ實施シ、銳意体
力養育、恢復ヲ圖リ、先、在、再、決、愈、矣、近、時、体、重、漸、減、シ、榮、養、不、良、ニ、テ、三、六、九、症、ナリ

体温未だ度脈搏七〇至整實ナリ。顔瘦者明ニシテ顔貌稍々憔悴シ顔色蒼白味ヲ
帯ビ古清淨ニテ可視粘膜ニ異常ナシ心界心音清澄ニテ第二肺動脈音尤進ス

肺野ニ排記所見ナク腹部平坦柔軟ニテ圧痛ナク肝脾ヲ觸ルモ泥状下痢便一日
數行ニテ全身倦怠若明ナルヨリ尿治ニ適スト認メ十一月十二日十五時三分臨時入院ス

入院時左記所見アリ体格ノ榮養不良ナリ顔貌憔悴ニテ顔色蒼白ニテ元氣ナク舌ハ
清淨ナリ胸部ノ第二肺動脈音尤進セル外若変ナシ腹部異常ナシ膝蓋腱反射減弱

ニ肺腸筋痛アテ休テヒタミシト劑及健胃消化劑ヲ與ヘ粥食特別食等ヲ與ヘ經
過ヲ觀察セリ十一月十六日前記症狀及ビ經過アリテ慢性腸炎兼脚氣ト病名決定セリ

十一月五日頃ヨリ水様下痢行トナル依テ止痢劑ヲ投與ス十一月五日ハ下痢三行ニシテ
此ラズ全身益々衰弱ノ兆アルヨリリンゲル及チキタミンノ皮下注射ヲ行フ十一月九日ハ

体重三五六斤ナル十一月十日頃ヨリ三八度位ノ發熱アリタルモ十一月三日ヨリ平温平脈ト
ナレシ第二肺動脈音尤進セル以外何等症狀ナシ下痢依然水様ニシテ六行程度ナリ

十一月二十日頃ヨリ下痢八十行程度トナル舌ノ乳頭ニ萎縮ニテ強劑ノ毎六時間注射ヲ
行フト共ニ高張糖液ノ靜注ヲ行ハシ十一月九日以來夜間ノ寒氣嚴シクシテ為カ翌十日顔

貌蒼白色ニシテ舌ハ灰白色ニシテ舌乳頭ニ萎縮アリ胸部呼吸音微弱ナリ心音微弱ナリ殆ビト
聴取ニ得ズ脈搏ハ細小ニシテ重複性ニ觸ル依テ十一時第一報ヲ發セリ十一月二十日頃ヨリ水
様下痢七行トナリ脈搏整ニシテ細ク緊張良好ナラス胸部呼吸音尋常トナル胸部扁
平ニシテ肋間陷凹ニシテ聴取ニ困難ヲ來セリ十一月二十日ヨリ下痢水様ナルモ一日三行トナル

顔貌ハ削瘦シ榮養者ニシテ衰弱ニテ元氣ニシテ脈搏微弱ニシテ良好
ナラス胸部呼吸所見前日同シ十一月十六日榮養衰退甚若明トナル顔貌老人様ニテ削瘦
著明ナリ脈搏ハ細小ニシテ緊張良好ナラス腹部ニ陷凹ニシテ圧痛ナシ足背ニ浮腫ヲ認
メ下痢水様便五行アリ依然健胃消化劑ヲ與ヘト共ニリンゲル液ノ皮下注射高張糖
液ノ靜注ヲ行ハシ朝夕二回皮下注射並ニカナル液ノ毎三時間注射ヲ續行シテリ

十一月十八日体温脈搏ハ饑餓狀アリ平温平脈ニ近シテ十一月三日ハ六時應答ハ消失ス高
張糖液ノ靜脈注射強劑ト皮下注射ヲ行ハシトモ八時ニテ脈搏ハ注射後ニ於テ觸知ニ得ルニ
至ル兩眼瞼ハ下垂ニシテ日月形ヲナシ兩眼上鼠之腫孔ハ殆ビト散大シテ口ハ開口狀ニシテ上
齒列ノ齒齦間ニ望見ス胸部ニ於テ呼吸音微弱ニシテ心音亦幽ナリ病危篤ナルヨリ

本日公時葉ヲ發ス「カニ」五〇匹靜注ヲ行ハト共ニカナル液ノ皮下注射

ニ、分皮下注射高張糖液ニ、煙ノ静注「リンガル液」五ロカ、煙ノ静注點滴注
射ヲ行フ前記注射ヲ行フモ十三時二十分ニ至リ「インストーク型」呼吸ニ移リ「ヒクワン
マール」連續注射並ニ「アドリリン」六煙ノ皮注モ其効ナク十三時三十分腫孔
散大シ心搏動並ニ呼吸音停止シ死ス依ッテ十三時三十分第一報ヲ發ス
六死年月日 昭和十九年十一月三十一日
七死亡場所 沖繩縣中頭郡中城村字津霸
第八十二師團野戰病院

右ノ通ニ候也

昭和十九年十一月三十一日

第八十二師團野戰病院附

高木 聖博

證明書

本籍地

現住所

第八十二師團獨立歩兵第二十二大隊歩兵砲中隊

昭和十八年徵集 陸軍一等兵 伊藤 勇

一病 名 慢性腸炎兼脚氣

一決定年月日 昭和十九年十一月十六日

一公務起因 本病ハ別紙所屬部隊長調製書實證明書ノ勤務ニ由リ發病セシメト認ム

右證明又

昭和十九年十一月十六日

第八十二師團野戰病院院長 陸軍醫少佐 熊倉 寛



ニ分注射高濃梅毒ニ。瘰癧ノ靜注、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注
射ヲ行フ。前記注射ヲ行ハシテ、十三時二十分ニ至リ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注
ニ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注ニ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注

散大ニ心搏動並ニ呼吸停止ニ至リ、十三時二十分ニ至リ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注
ニ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注ニ、リノ液、五ロカ、瘰癧ノ靜脈點滴注

右ノ通候者、本病ノ原因、梅毒ノ感染ニ在リ、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染
梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染

第一、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染
梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染、梅毒ノ感染

死亡診斷書

一氏 伊藤 勇
二男女ノ別 男

三出生ノ年月日 大正十二年十月十五日

四職業 第六十二師團獨立步兵第三大隊步兵砲中隊
陸軍上等兵

五病死自殺其他 戰病死
六病名 慢性腸炎兼脚氣(戰病)

七發病年月日 昭和十九年六月二十日

八死亡年月日時 昭和十九年十二月三日午後一時三十分

九死亡場所 沖繩縣中頭郡中城村津霸第一師團野戰病院

右證明候也
昭和十九年十二月三日

第一師團野戰病院護軍軍醫少佐 熊倉 寛

第六十師團獨五步兵第二十二大隊步兵砲中隊

昭和十九年十二月五日

出 發 日 期

一 昭和十九年十一月三日

二 昭和十九年十一月三日

三 昭和十九年十一月三日

四 昭和十九年十一月三日

五 昭和十九年十一月三日

六 昭和十九年十一月三日

七 昭和十九年十一月三日

八 昭和十九年十一月三日

九 昭和十九年十一月三日

十 昭和十九年十一月三日

諸給與金證明書

本籍地

現住所

第六十師團獨五步兵第二十二大隊步兵砲中隊

故陸軍上等兵伊藤 勇

右者ニ對スル昭和十七年一月三十日陸軍省告示第二號
大東亞戰役ニ係ル死歿者特別賜金賜與規定第三項
ノ諸給與金ニ支給シテアラザルコトヲ證明ス
昭和十九年十二月五日

獨五步兵第二十二大隊長 磯崎



中華民國二十八年十一月五日

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

事實證明書

本籍地
現住所
所屬部隊

第六十二師團獨立步兵第三大隊機關銃中隊

昭和十八年徵集補充兵役陸軍一等兵橋本勉

昭和十九年一月三十一日 下關港出發

昭和十九年二月三日 山海關通過

晉中晉東南地區及晉中晉南地區

初年兵教育受之同地附近警備

河南省中南部地區警備

沖繩本島防衛隊

昭和十九年八月一日新鄉

中華民國河南省獲嘉縣秦村營

新鄉

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月一日

昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日

一發病 昭和十九年八月一日